

と云って居られたが、いささか着きがなくなった様な感じであった。その後、何日かして舶来のゴルフ道具の自慢をいくさり聞いた。米国支店勤務から帰られた奥様の御令弟から巻き上げられたものである。以来、院長室に入るには中の気はいを伺ってから入る必要を感じた。手頃な檜の棒でスイングの練習をして居られることがあるからである。博士のゴルフはその御性格を反映する様に豪快であった。球の方向については必ずしも定かではないが、一度当れば、誠に気持ちよく飛んだ。怠け者の小生は何時の間にかゴルフから遠去ってしまったが、その後時々お伴した測量協会の理事長の話によると、この1,2年小水がお近くなって、見えなくなったと思うと木立から出て来られることが多かったという。癌と云う不治の病

魔が、その頃から健康で快活な博士を侵かし始めたのだろうかと思われ、暗然とする。しかしこの5月入院される直前迄、ゴルフを楽しまれ、退院後のゴルフを期待され、「今度はお前も又始めろよ」といわれていたのを想い出すと何か救われたような気にもなるのである。

戦後の測地測量の技術的發展、特に人工衛星の利用等により測地学の第2の進展が期待される折、博士を失うのは誠に残念である。あの人情味ある活達な偉軀に永遠に接することができない淋しさが身に沁みるのは筆者のみではないであらう。測地学がは冤も角、学者達にも充分に理解されていない日本に於いて、測地事業の火を消さないで今日迄守り育てて来られた博士の功績は評価し過ぎることができない。御冥福をお祈りすると共に、日本における測地学の發展を期待したいと思う。

武藤勝彦氏略歴

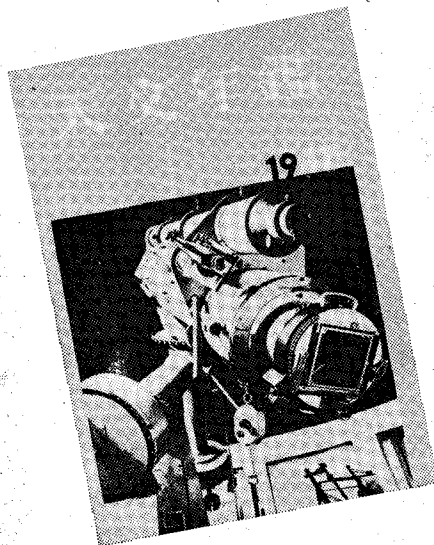
明治28年2月7日 埼玉県本庄市にて出生
 大正11年 東京帝国大学理学部物理学科卒業
 山形高等学校教授
 大正14年 陸地測量師
 昭和9年 満州国へ出張（新京基線測量及増大観測）
 昭和13年 理学博士
 昭和16年 陸軍技師
 昭和20年 地理調査所長
 昭和25年 測量審議会委員
 昭和26年 国土調査審議会委員
 昭和28年 日本学術会議委員

昭和35年 宇宙開発審議会委員
 昭和35年 国土地理院長
 昭和36年 国土地理院長辞職
 日本道路公団顧問
 昭和40年 勲二等旭日重光章を授与される
 日本測量協会顧問
 昭和41年 日本測量協会会長
 昭和41年8月16日 死去 71才
 なお天文学、地球物理学研究連絡委員会委員としても活躍され、また国際会議出席等のため数回の海外出張をされました。

天体観測のバイブル 「天文年鑑」1967年版が 大好評 発売中です

お近くの書店どうぞ——

■1967年の毎日の天文現象の予報、惑星や月・太陽の出没時刻、日・月食や星食、小惑星・彗星・流星・変光星の予報、水・金・火・木・土・天・海・冥王星などの1年間の動き、太陽の月面余経度・月面緯度の毎日の値、さらに新しく主な星雲・星団の表や恒星表、隕石・ユリウス日・JJY報時の項目をふやしたもので、初心者から高度のアマチュアまで、天体観測者になくしてはならない、便利な定評のある年鑑です



B6判 124ページ（増ページ）

定価 250円